

日本歯科色彩学会  
発行人 片山伊九右衛門

「歯科色彩学のことは日本歯科色彩学会で学べ」

会長 片山伊九右衛門

色彩学は、従来高い専門性が必要とされていたが、パソコン、プリンタ、ディスプレイ、デジタルカメラといった情報機器の普及によって誰もが簡単に色彩学の研究ができるようになった。

現在日本の歯科医学会が共通に抱える問題は、類似した専門の学会が次々と設立されて、同じ興味を持つ専門分野が複数の学会に存在するので各学会に会費を納入することになり、個人としては大変負担が大きいのが現状です。

本学会が他の類似の大きな学会と一線を隔てる理由は、色彩学が狭い専門分野に限定されない横断的な学問であり、すなわち心理、生理、物理、照明、芸術、ファッションといったあらゆる学問分野と密接で重要な位置を占めてかつ専門性を必要とするからです。

本学会が歯科系学会協議会の一員として高い評価を受けるためには、まずは会員数の増大と、講習会などでの高度な色彩学の習得、論文の質的向上は必須です。ところが必ずしも色彩学会に入会せず、他の大規模な学会に所属して色彩で活躍しておられる人が結構います。

そこで、「歯科色彩学のことは日本歯科色彩学会で学べ」という風潮が沸き起こり、本学会が真に安定した歯科の色彩学研究の頂上に到達することを念じてやみません。日本歯科色彩学会が多くの異なった分野の人々にとって間口の広い学会で、かつ十分な議論のできる奥行き深い学会であればと願っています。

日本歯科色彩学会理事であった元株資生堂ピューティサイエンス研究所の棟方明博先生が1993年の日本色彩学会雑誌に投稿されている文で、測色することの意味を述べられています。かつて指宿真澄先生からも同じご指摘を受けたことがあります。元呑昭夫副会長からも口を酸っぱくして、測色の意義をもっと掘り起こした研究が望ましいといわれております。

要約すると「近年、多くの測色機メーカーの努力による、測定の自由度が飛躍的に高まっています。これまでの測定の対象として考えられなかったものまでが測定されて、色の議論の場に参加するようになってきました。加えてマイクロプロセッサの積極的な導入によって、測定しさえすれば色情報が瞬時にアウトプットされる限りなくバカチョン式になってきました。測定が簡便になることは喜ぶべきことであり、そのために誰でも気軽に測色して、色データを手にすることができるようになりました。

しかし最近、この簡便さが災いしているケースに出会うことが少なくありません。色が人の感覚であるという基本がおろそかになっていような気がしてなりません。測定したら色差が〇〇だから色が違ってという結論と、色が違って感じるものを測色したら色差が〇〇だったという結論の持ちかたの、本質的な違いを大切にしたいと思っています。

これからはメディア間の色の相互の関係や、画像における色や色差の持つ意味等を考えながら、測色できる（できてしまう）ことと、測色して意味のあることを、これまで以上に意識して色彩の仕事をしなればと感じています。」

測色し、色差をだして、統計処理で有意差があったということも大事ですが、色差でもっとも一般的な NBS 単位が現在は消滅しています。歯冠色はL\*の値が比較的大きく、a\*の値が小さいので、歯科独特の色差式を編み出す時期にきていると思われる。

棟方氏の測色することの意味を、もう一度吟味して欲しいものです。

訃報

本学会理事の長浜九十九太郎先生が昨年12月23日ご逝去されました。長年の会へのご指導に感謝し、ご冥福をお祈りいたします。長浜先生有難うございました。

第13回日本歯科色彩学会 総会・学術大会 案内

メインテーマ：『色は語る！ 色彩からみえるもの』

開催場所 大阪歯科大学天満橋学舎（附属病院）

大阪市中央区大手前1丁目5-17

開催日程 平成17年7月30日（土）

12:00-14:00 常任理事会

14:00-15:00 理事会・評議員会

15:00-15:45 教育講演1 カラーランド研究所長 元呑昭夫先生

「白色の美しさ」(仮題)

15:45-16:30 教育講演2 カラーコーディネーター中城基雄先生

「舌の色から変わる歯科治療」(仮題)

16:30-17:45 色彩感覚涵養大会

18:00-19:30 懇親会（プラザフォーティーン 14階）

平成17年7月31日（日）

9:30-10:00 総会

10:00-11:30 一般口演（6題予定・PC1台使用）

11:30-12:30 特別講演 武蔵野美術大学教授 千々岩英彰先生

「色彩認知と色彩感情」(仮題)

12:30-13:00 ランチタイム（弁当予約制）

13:00-14:00 業者デモンストレーション（5-6社予定）

14:00-16:00 ポスター発表（8題予定）

演題申込み 平成17年4月30日締め切り

(別紙添付書式にしたがって、メールまたはFAXにて申請してください)

抄録提出 平成17年5月31日締め切り  
(演題申込者に後日ご案内させていただきます)

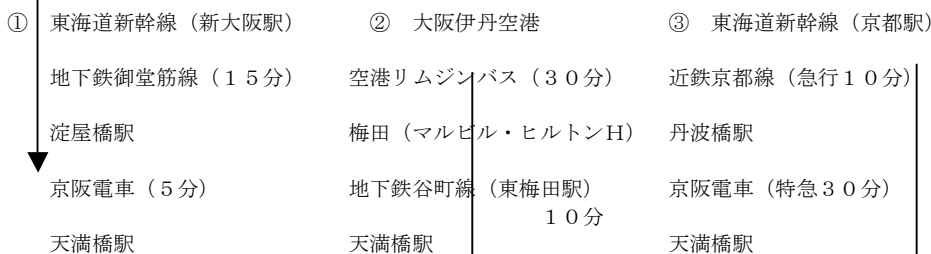
参加費用	事前登録 (7月10日まで)	当日会費
会員	7,000円	8,000円
非会員 (歯科医師)		10,000円
非会員 (歯科技工士・歯科衛生士)		5,000円
学生 (大学・専門学校)		1,000円
お弁当 (7/31のみ)	1,000円	当日販売なし
懇親会	7,000円	8,000円

事前参加費振込先 (平成17年7月10日まで)  
三井住友銀行 くずは支店 普通 1971220  
日本歯科色彩学会 平成17年度学術大会 末瀬一彦

問合せ先

〒573-1144  
大阪府枚方市牧野本町1-4-4 大阪歯科大学歯科技工士専門学校  
TEL: 072-857-3905 FAX: 072-857-0080  
大会長: 末瀬一彦 (suese@cc.osaka-dent.ac.jp)  
準備委員長: 木本吉昭 実行委員長: 仲宗根幸男

学術大会会場 (大阪歯科大学天満橋学舎) までの道順



第13回日本歯科色彩学会を開催するにあたって  
大阪歯科大学 客員教授・歯科技工士学校校長  
末瀬一彦

近年、歯科材料の開発・改良は著しく、生体機能の回復において高精度、高機能の修復が可能になっています。とりわけ、歯や口腔に関する修復においては咀嚼、嚥下、発音、表情などの機能回復は当然として、健全な状態と遜色のない自然な修復が望まれています。

「歯科色彩学」は、単に歯の色調だけを論じるのではなく形態とのバランス、顔貌との調和、機能的な美しさ、あるいは診療室や技工室の環境、診療衣や器材の配色、そして診断学への応用や診療スタッフ、患者さんに与える感情的・心理的な要素にまで及んでいます。

今回の学術大会のテーマは『色は語る！色彩からみえるもの』と題して、私たちが日頃、ことばでは最も伝えにくいとされている『色』について、心理学的な側面から捉えてみよう企画しました。そこで、特別講演および教育講演2題を企画し、元呑昭夫先生には、国民の共通の願望でもある「美しさ・清潔さ」の代名詞でもある「白さ」について検証していただき、中城基雄先生には歯科的、内科的診査として通常用いられている「舌視診」から診えるものについてご教示いただきます。さらに特別講演では、色彩の快適性を追求したコンピュータによる色彩計画システムの開発を進められ、色彩心理学では国際的に著名な千々岩英彰先生に「色彩認知と色彩感情」についてトレンド的な話題を提供していただく予定です。また、会員からの一般口演やポスター発表も多数公募しています。いずれも「歯科色彩学」として大変興味深い、密度の濃い内容であるご講演であると確信しています。日本歯科色彩学会の会員の歯科医師、歯科技工士および歯科衛生士の先生方、企業メーカーや材料開発者の皆さんは基より、会員外の先生方にもぜひともこの機会に「歯科色彩学」の真髄に触れていただきたいと存じます。

また、今回は前回大変好評でした「色彩感覚涵養大会」の続編を行います。参加者の皆様には気軽にゲーム感覚で色彩の世界に挑戦していただきたいと思います。成績優秀者にはすばらしい賞品も用意しています。さらに学会開催において日頃よりお世話になってます企業メーカーの皆さんからは「最もトレンド的な話題商品」の発表を行っていただく予定です。どうかご期待ください。

夏真っ最中の暑い、暑い大阪の地で、熱い、熱い討論をしていただき、その後は「わが校自慢の良質な温泉」で汗を流していただき、さらには間近にライトアップされた大阪城を見下ろす絶景のロケーションでの懇親会で会員相互の親交を深めていただきたいと存じます。

第13回日本歯科色彩学会が無事盛会に開催されますよう、皆様方の絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お知らせ

1、平成16年秋期叙勲

本会監事、生田博康先生が平成16年秋期の叙勲で見事に旭日双光章を授章されました。先生のご業績は、ご略歴の通り、歯科医師会、学校歯科医学会、保健医療問題、青色申告などで活躍されております。今回、厚生労働省から上記の章を授与されました。日ごろから本会の予算・決算に厳しいご指摘があり、会の発展に寄与されております。今後ますますご活躍くださることを祈念いたします。

ご略歴

昭和4年 広島に生まれる

27年 東京歯科医学専門学校卒業  
33年 生田歯科医院開設  
平成 3年 厚生大臣表彰  
5年 東京都歯科医師会副会長  
7年 藍綬褒章授受

#### 勲章について

生存者に対する勲章の授与は、昭和21年5月3日の閣議決定により一時停止されていましたが、昭和38年7月12日の閣議決定により再開されることになり、その第1回の叙勲は、昭和39年4月29日付けで、各界の功労者に対して授与されました。その後、現在に至るまで春秋叙勲として毎年2回、春は4月29日、秋は11月3日付けで授与されています。

候補者は、栄典に関する有識者の意見を聴取して内閣総理大臣が決定した「春秋叙勲候補者推薦要綱」に基づき、各省各庁の長から推薦されます。内閣府賞勲局は推薦された候補者について審査を行い、原案を取りまとめます。その後、内閣官房長官が主宰する叙勲等審査会議の議を経て、閣議に諮り、受章者が決定されます。

受章者は、大勲位菊花章、桐花大綬章、旭日大綬章及び瑞宝大綬章を、宮中において天皇陛下から親授され、旭日重光章及び瑞宝重光章を、宮中において内閣総理大臣から伝達されます。また、その他の中綬章等の勲章並びに銀杯及び木杯にあっては、各府省大臣等から伝達されます。いずれの場合も、受章者は勲章を着用し、配偶者同伴で天皇陛下に拝謁します。なお勲章は、国家又は公共に対し功労のある方で、旭日章は功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた方で、瑞宝章は公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方で、今までのように上下はなくなりました。

(注)上記の他に、外国人に対する儀礼叙勲等特別な場合に、女性のみ授与される勲章として宝冠章があります。

## 2. 本会、常任理事の桑田氏に米国ラッド賞

ボストン大学歯学部客員教授で、愛歯技工専門学校校長の桑田正博氏が、アメリカで昨年創設されたラッド賞の第1回目の受賞者に選ばれた。24日、シカゴミッドウインターミーティングで開催される第77回アメリカ補綴歯科学会のオープニングセレモニーで授与される。

ラッド賞はアメリカ補綴歯科学会と The Journal of Prosthetic Dentistry がアメリカの歯科学会、歯科業界の歴史的リーダーとして存在してきた巨人、Dr. Kenneth D. Rudd に敬意を示して創設され、昨年7月にアメリカ歯科医師会と JPD を通じて創設がアナウンスされた。

同賞は、①長年にわたり歯科技工士のレベルアップのために尽力②「歯科医師と歯科技工士の調和のとれたレベルでのチームワークが確立されてはじめて人類のための歯科医療となり得る」とのヒロソフイーを歯学教育の中に反映させてきた人の与えられる。

桑田氏は今回の受賞について「歯科技工士学校長の任にあるこの時期に与えられたことはこの上なく意義があることだと感謝している」。

(日本歯科新聞2月8日号掲載から)

先生のますますのご活躍を期待いたします。

## 3. 認定士委員会からのお知らせ

日本歯科色彩学会認定士制度が充足して5年が経ちました。認定士資格申請のお問い合わせも増えてまいりましたので、利便性を考えて日本歯科色彩学会ホームページよりダウンロードできるようにいたしました。[http://www.colorland.co.jp/j\\_ninteshi.htm](http://www.colorland.co.jp/j_ninteshi.htm)

また、認定士資格取得の申請も随時受け付けておりますので、まだ取得されていない先生方にはぜひ取得していただき、会の発展に貢献していただければ幸いです。

認定審査会 委員長 阪 秀樹

お尋ねは次のところまでご連絡ください。

〒337-0051

埼玉県さいたま市見沼区東大宮1丁目12番地35

埼玉歯科技工士専門学校内

日本歯科色彩学会 認定士制度事務局

TEL 048-685-5211

FAX 048-685-5239

## 4. 見学会委員会 ニコン見学会のお知らせ

最新デジタルカメラ入門 『デジタルカメラの色設定とスライドのデジタル化』

日時：2005年 2月20日(日) 場所：ニコン新宿ショールーム

講師：ニコンカメラ販売株式会社映像推進部 フォトサポートセンター 倉持 永氏

申し込みが多くて、すぐに満席となりました。希望者多いときは再度計画をいたします。

## 歯科色彩学基礎講習会に参加して

日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座 山口秀紀

さる、2004年10月23日(土)と24日(日)の両日、さいたま市阪勉学園埼玉歯科技工士学校にて開催された、2004年度日本歯科色彩学会・歯科色彩学基礎講習会に参加してきましたので、その概要について報告させていただきます。

本講習会は、歯科の色彩を学ぶうえで基本となる内容について、座学と実習を通し学習することを目的とするとともに、本学会認定士資格申請の条件としても位置付けられています。

今回の講習参加者は6名で、その職種は開業歯科医師、開業技工士、勤務技工士、大学教員そして大学院生と、それぞれが歯科界の中でも異なったポジションで活動している方たちでした。講義・実習を担当されたのは、本学会々長の片山伊九右衛門先生、副会長の元呑昭夫先生、中山友克理事そして中山章常任理事の各先生方でした。

1日目の講習は、朝9時から片山会長による本講習会の目的と歯科色彩学の総論講義で始まり、次いで元呑副会長から、色の三属性や色度による表示法、色彩表示と伝達のための基礎知識について解説が行われました。昼休みには、各受講者と講師陣の自己紹介が行われ、その中で各参加者の受講動機についても話されました。大学院受講生は修復物や歯牙硬組織、口腔粘膜に関する色彩研究のための知識習得を、また開業歯科医師や技工士は、チェアーサイドとラボとの色彩情報伝達・再現に関する手法についての学習など、全員

が明確な目的を持っての受講でした。午後には、色差感覚の演習が色彩感覚涵養大会さながらに行われ、受講生の中にはほぼ満点に近い成績を残した方もおり、講師陣を驚かせていました。

初日の講習が終了した直後、新潟中越地震が新潟県を襲い多くの方が被害に遭われました。被災者の方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復旧をお祈りいたします。

翌2日目は、朝から測色に関する講義と実習が行われ、実際に幾つかの測色計を手にとって操作することが出来ました。また CIE L\*a\*b\*表色系による色差式や偏色量の計算実習も行われ、参加者は各自の眼と頭とをフル回転させグラフ作成に臨んでいました。午後からは、今日の色彩情報伝達に欠かせないデジタルカメラについての講習が中澤講師によって行われ、口腔撮影に用いるデジタルカメラの種類と仕様、ストロボ光源や画像処理などについての説明およびデモンストレーションがありました。

講習の最後には、総括質問や講習会への希望など自由討議の時間が設けられ、参加者と講師陣の双方から今後の講習会開催に向けての課題が検討されました。その一つとして講習に関するテキストに関する意見がありました。今回講習で使用したテキストは、講習当日に配布されましたが、あらかじめ講習テキストを読んでから講習会に参加することで、より一層の理解が容易になるのではないかとの意見が出され、講習テキストの事前配布を今後の検討課題として取り上げて頂きました。

2日間の講習を通し、会長の片山先生は自ら講義を担当されるばかりでなく、全ての講義・実習に参加され、特に実習では我々受講生とともに色カルタや色彩判別に積極的に取り組まれていたことがとても印象的でした。また、期間中の講習内容のみならず、昼食時や休憩時間における元副会長ら講師陣との雑談も有意義なものであり、色彩知識の習得だけでなく、参加者同士や講師の先生方との情報交換が行えたことも本講習会参加で得られた大きな成果だと思っております。

最後になりましたが、今回の講習を担当して頂いた講師の先生方と一緒に参加した受講者の皆様および関係各位に感謝申し上げます。

お詫び

先の総会で承認され、37号ニューズレターで紹介する折に、評議員の遊亀裕一氏のお名前が間違っていました。謹んでお詫びします。